

育英会辞令交付



(第23回 育英生)

<平成22年度 第23回 採用育英生 【全2名】>

名前 (よみがな)

国 籍/年 齢/派遣先

- 1 伊藤 康心 (いとう こうしん)
日本/36歳/タイ・ワットパクナム
- 2 トラン・クオック・フォン
ベトナム/28歳/日本

<平成23年度 第24回 採用育英生 【全4名】>

- 1 ウカシュ・法純・シュプナル
ポーランド/29歳/駒大博士課程修学
- 2 エッカーター・トビアス
ドイツ/26歳/京都萬福寺
- 3 史 経鵬 (シ ケイホウ)
中国/26歳/武蔵野大学
- 4 樋口 星覚 (ヒグチ セイガク)
日本/29歳/ニューヨーク禅センター



(第24回育英生)



【育英会ニュース】

藤田一照老師 テレビに出演

毎月第四日曜日、夕方三時からの坐禅会にてご指導を頂いていた藤田一照老師（第九期育英生）がNHKの「こころの時代」（平成二十二年七月七日放送）に登場。

在家の御出身で出家されたご縁。幼少期より感じていた不思議な感覚から坐禅との出会い。日本とアメリカで修行をされた経験などをお話されました。その中で善光寺での坐禅会の様子が具さに放映されました。

NHKの「こころの時代」の影響力は大きく藤田老師の独特の指導方法や善光寺との関係などが紹介されたことから、数多くの視聴者の

方々より問い合わせが寄せられました。

現在藤田老師はアメリカ・サンフランシスコの曹洞宗国際センター所長に就任され、アメリカで大活躍。

従って老師による坐禅会の指導はしばらく休止となります。

しかしながら坐禅会自体は、住職指導のもと変わらずに行っておりますので、どうぞご参加下さい。

胡 建明師 哲学博士号取得

平成二十二年七月九日に善光寺留学僧育英会の第十一回留学僧であった胡建明師が善光寺へ上山しました。胡師は中国人民大学博士課程に在籍していましたが、このたび中国華厳教学の大成者圭峰宗密の研究（「宗密思想の形成と発展」）で哲学博士の学位を取得されました。

胡師は天童寺にて修行されて来日。駒澤大学・東京大学に学んで仏教を学んだ後、東京芸術大学大学院、南京芸術学院大学院に在学され、すでに禅僧の墨跡の研究で文学博士を取得されています（『成寿』第三七号で紹介）。

胡師によると、善光寺育英会の留学者として黒田武志老師に物心両面にわたって支えられたことに対する強い感謝の思いがあり、北京の中国人民大学での学位授与式には前回と同様、武志老師からいただいた赤いネクタイを着用して臨んだとのこと。そしてこのたびその学位記を持参して善光寺武志老師の御真前にて報告をされました。

善光寺育英会もさまざまな困難を超えて再開されましたが、こうして育英会の留学者が国際的に活躍されていることは喜ばしいことです。ここにお知らせさせていただきます。

（善光寺育英会理事 安藤嘉則記）



トラン・クオック・フォン師

愛知学院大学大学院博士前期課程に在籍中の同師は平成二十三年二月、『大乘仏教における二諦思想の研究』と題した論文を提出、本育英会にも、そのコピーを持参し報告をされた。師は現課程継続後に博士課程に進む予定。今後益々の精進を期待致します。

タイ国の僧侶来山

去る六月五日、タイ国ワットパクナム寺院より来日されていた僧侶二名が来山されました。そしてタイ国の政治的不安定な状況から、訪タイが延期されていた育英生、伊藤康心師についての話などをされ、博志方丈も自らのタイでの修行を思い出すひと時を過ごしました。



七月には伊藤師の訪タイも叶い、ワットパクナム寺院で安居できました。

【育英生からのお便り】

◇現在、ワット・パクナム寺院にて修行中の第二十二回育英生の伊藤康心師からのお便りです。

【盛夏】

バンコクは、日本よりも暑くないようですが、蒸し暑い日々を過ごしております。

黒田様におかれましては、相変わらずお元気でご活躍のことと存じます。

さて、この度はワット・パクナムでの修行につきまして、ひとからならぬご尽力を賜り、私事ですが、釈尊の教えを原始の形で聞いてみたという思いを成していただき、感謝の気持ちでいっぱいでございます。まずは、朝夕のお経の勉強ということで、日々精進していこうと思っております。

また以前、善光寺様よりワット・パクナム文

庫という図書が送られたようですが、図書室に散乱しており、ひどい汚れようであります。

こちらに日本人の平田潔さんという方がおられ、その方に相談すると、雨安居が明けると、タイ語のテストがあるということで、そのテストの後、片づけるということにいたしました。チャイ先生を始め、平田さん、となりのオーストラリア人、インド人。同安居のタイ人の世話になりながら日々是好日とばかりに楽しく修行させていただいております。

黒田様、ご家族の方々、善光寺の皆様、真野先生、関係各位の方々、皆様方のご支援とご協力のたまものと今さらながら感謝せずにはおられません。厚く御礼申し上げます。今後ともよろしく申し上げます。

まずは、お礼とご報告をかねて挨拶まで。
ワット・パクナムにて

十一面觀音像



沙門三喜花